

# 新潟市立工業高等学校

昭和20年3月1日創立 昭和57年3月31日閉校 36年のあゆみ

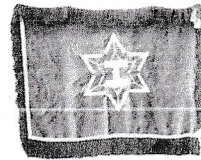
## 沿革

戦時中当時、新潟市鉄工組合から「本格的な技術教育をつけた人がほしい」ので、下町に工業学校を創立してほしいとの要望が市に出されていた。

昭和20年4月7日、二葉国民学校の一部を仮校舎として授業を開始した（生徒50名、専任職員3名、講師8名）。  
昭和20年6月16日、新潟市鉄工組合の解散により、その建物や機械器具を新潟市が譲り受けて移転した。



校章は、工業の「工」の字六つを六角形に図案化し、雪国を象徴的に表し、中央に穩健着実型の「工」の文字を配して作られた。これは、開校前の木工試験場長の竹内氏が考え、初代校長の美旗実之助氏が図案化したものです。



新潟市工校旗

校訓：まごころを貫け

住所

新潟市中央区附船町1丁目 4385-1

## 学校の沿革

年	西暦	学校の主な出来事
21年4月	(1946)	新潟県木工試験場を買収、本拠とする
23年3月	(1947)	第一期卒業生 40名
23年4月	(1947)	新潟市立工業高等学校と改称し、定時制課程も設置
24年2月	(1949)	国立倉庫解体の用材を用いて体育館、普通教室を作る
25年4月	(1950)	国内唯一の造船科を新設 生徒40名
26年3月	(1951)	定時制課程に普通科設置。校歌制定
31年	(1956)	機械科1学級増設、第二代目磯貝校長により「校訓」が決まる
32年	(1957)	定時制に機械科1学級増設
34年	(1959)	電気科1学級新設
36年	(1961)	定時制に電気科1学級新設
38年	(1963)	改築校舎本館完成
39年6月	(1964)	16日 新潟地震発生、津波と液状化により付近一帯床上浸水となる
42年10月	(1966)	新体育館完成
44年9月	(1968)	新校舎増設1期工事完成
48年4月	(1973)	新教育課程発足機械科1学級増設
52年10月	(1977)	市立高等学校の将来計画について検討
54年1月	(1979)	市立高等学校施設整備連絡協議会発足
54年9月	(1979)	本校閉校準備委員会発足
55年4月	(1980)	市立白山高校、市立工業高等学校の両校共に敷地は狭い上、グラウンドもなく、これからの教育環境を整備充実させるために移転統合し、新潟市立高志高等学校を設立させた
56年11月	(1981)	閉校記念碑「新潟市工之跡」碑除幕式
57年3月	(1982)	7日 最後の卒業証書授与式
57年3月	(1982)	31日 新潟市立工業高等学校閉校 卒業生6,956名

昭和

## 市工校歌

大木 悖夫 作詞  
岡本 敏明 作曲

一、飯豊山 そびゆるかたに  
朝雲の のぞみは高し  
新しき 工の 業を  
まなびなむ 践みて修めて  
人の世の さいわいのため  
ああわれら 青空を慕わばや

二、信濃川 うるおす土に  
緑葉の 伊吹きは清し  
美しき 智慧みつ珠を  
みがきなむ 思いひそめて  
くらし世の よろこびのため  
ああわれら 灯びをかざさばや

三、大海の とどろく潮に  
若人の あこがれ熱し  
たくましく 貢ぎの道を  
つらぬかむ 誠つくして  
人の世の やすらぎのため  
ああわれら 夕星に祈るらばや